

現代マクロ経済学の再検討： ワルラス経済における市場の失敗とケインズの失業均衡

前流通経済大学

河合榮三*

報告要旨

本論は現実の経済の観察と既存の理論への懐疑から現代マクロ経済学の常識に挑戦する。二つの主要な結果は以下の通りである。ひとつは、価格メカニズムはワルラス経済においては極めて不完全であり、特にデフレの下では働かないことである（ワルラス経済における市場の失敗）。これは、ニューケインジアンが言う「賃金・価格の硬直性やメニューコストそして情報の非対称性などによる市場の失敗」とは全く異なる。ワルラス経済における市場の失敗の決定的原因は、不均衡下において不可避の財と労働市場の間の *spillover effects* にある。ワルラス的価格メカニズムはこの効果を全く無視している。この効果を明示的に考慮する限り、賃金・価格の伸縮性を前提にしたワルラス的一般均衡は成り立たない。この説明のためには、静学モデルで十分であり、DSGE モデルに基づく必要はないし、不可能でもある。

もうひとつの結果は、ワルラス経済における市場の失敗の結果として、ケインズの失業均衡が成り立つことである。それゆえ、非自発的失業の原因は価格面にあるのではなく数量面に、即ち実質賃金の硬直性にあるのではなく、硬直の実質賃金の下での労働需要の不足にある。この点はシャピロ・スティグリッツの効率賃金モデルを再解釈することによって明らかとなる。最後に、需要が短期だけでなく長期においても決定的に重要な役割を果たす要因であることを示唆する。

JEL classification: E12, E24, J22, J23

Keywords: 不均衡下の波及効果；ワルラス経済における市場の失敗；ケインズの失業均衡；
総需要の役割

* 2017年3月、流通経済大学を定年退職。

報告論文(英語版)へのリンク先、<http://ssrn.com/abstract=2416688>